

説教題:「物質的富 対 霊的富」

聖書朗読: ヤコブの手紙 5:1-12

¹ 聞きなさい。金持ちたち。あなたがたの上に迫って来る悲惨を思って泣き叫びなさい²あなたがたの富は腐っており、あなたがたの着物は虫に食われており³あなたがたの金銀にはさびが来て、そのさびが、あなたがたを責める証言となり、あなたがたの肉を火のように食い尽くします。あなたがたは、終わりの日に財宝をたくわえました。

⁴ 見なさい。あなたがたの畑の刈り入れをした労働者への未払い賃金が、叫び声をあげています。そして、取り入れをした人たちの叫び声は、万軍の主 (the Lord of Sabaoth) の耳に届いています。⁵あなたがたは、地上でぜいたくに暮らし、快樂にふけり、殺される日にあたって自分の心を太らせました。⁶あなたがたは、地上でぜいたくに暮らし、快樂にふけり、殺される日にあたって自分の心を太らせました。

⁷ こういうわけですから、兄弟たち。主が来られる時まで耐え忍びなさい。見なさい。農夫は、大地の貴重な実りを、秋の雨や春の雨が降るまで、耐え忍んで待っています。⁸あなたがたも耐え忍びなさい。心を強くしなさい。主の来られるのが近いからです。

⁹ 兄弟たち。互いにつぶやき合ってはけません。さばかれないためです。見なさい。さばきの主が、戸口のところに立っておられます。¹⁰ 苦難と忍耐については、兄弟たち、主の御名によって語った預言者たちを模範にきなさい。¹¹ 富み、あわれみに満ちておられる方だということです。

¹² 私の兄弟たちよ。何よりもまず、誓わないようにしなさい。天をさしても地をさしても、そのほかの何をさしてもです。ただ、「はい。」を「はい。」、「いいえ。」を「いいえ。」としなさい。それは、あなたがたが、さばきに会わないためです。

おはようございます、皆さん。またお会いできて嬉しいです。私はヤコブの手紙を解説する一連の説教を続けてまいりました。先週は4章を終え、本日は最終章である5章に至りました。来週でこの手紙を終える予定です。

今日の聖書朗読は、金持ちに向けた非常に厳しい言葉から始まりました。金持ちであること自体は罪ではありませんが、ここでヤコブが非難している人々は、他人を搾取して富を得たのです。ここで用いられた厳しい言葉は非常に印象的で、この段落においてヤコブが彼らを「兄弟たち」と呼んでいないことに注目します。明らかに彼は彼らを信仰の仲間とは見なしていません。おそらく彼らは、いわゆる「名ばかりのクリスチャン」——何らかの形でキリスト教コミュニティに関わってはいるものの、真に新生しておらず、実際にキリスト教の基準に従って生きていない人々——なのでしょう。

4章の終わりにある前の段落を見ると、ヤコブがキリスト教共同体の一員でありながら、ビジネス志向の強い人々に対して訴えかけていることがわかります。ヤコブは彼らを、誤った行動を改める希望がまだあるとみなしているようです。

先週見た幾つかの聖句を読みましょう。ヤコブ 4:13-16 – 「**13** 聞きなさい。「きょうか、あす、これこれの町に行き、そこに一年いて、商売をして、もうけよう。」と言う人たち。**14** あなたがたには、あすのことはわからないのです。あなたがたのいのちは、いったいどのようなものですか。あなたがたは、しばらくの間現われて、それから消えてしまう霧にすぎません。**15** むしろ、あなたがたはこう言うべきです。「主のみこころなら、私た

ちは生きていて、このことを、または、あのことをしよう。」16 ところがこのとおり、あなたがたはむなしい誇りをもって高ぶっています。そのような高ぶりは、すべて悪いことです。」

これらの商人たちは、神が私たちすべての上に主権者であり、人生は脆く不確かなものであるという事実を心に留めていません。ヤコブは彼らに傲慢な態度を取っていると告げ、意思決定において神を認めるよう勧めています。15 節は私たちが持つべき正しい態度を示しています。すなわち、神の前での謙遜、そして神が私たちの人生を所有し、御心により計画を転換されることを認めることです。ここでヤコブは、彼らに対するある種の希望を示しています。つまり、彼らを同じ信仰者であると思なしつつも、神の国の基準ではなくこの世の基準に従って生きている者たちだと認識しているのです。彼は道を誤ったクリスチャンたちに、自らの態度と優先順位を正すよう強く促しています。

しかし、5 章の最初の段落における金持ちへの彼の態度は全く異なります。ヤコブはこの段落の初めから終わりまで、彼らを非難しています。彼らを兄弟とは呼ばず、前の段落の人々に対して行ったような勧告も与えていません。そのため聖書学者たちは、ヤコブが 5 章の金持ちたちを同じキリスト者とは見なししていない可能性が高いと指摘しています。

本日の説教の題は「物質的富 対 霊的富」としました。1 節から 6 節において、ヤコブは物質的富のみを追い求める人々に対して厳しい言葉を述べています。7 節から 12 節では、彼が「兄弟たち」と呼ぶ人々に向けて語りかけ、そこには霊的富への道が記されています。

ヤコブ 5:1-2 (そして 3 節の最初)を読みましょう – 「**1** 聞きなさい。金持ちたち。あなたがたの上に迫って来る悲惨を思って泣き叫びなさい。**2** あなたがたの富は腐っており、あなたがたの着物は虫に食われており、**3** あなたがたの金銀にはさびが来て、…」

「泣け」「嘆け」という言葉は、裁きの日が訪れた時に悪しき者たちに何が起こるかを預言者たちが描くために用いられたものです。－例えば、イザヤ 13:6 – 「泣きわめけ。主の日は近い。全能者から破壊が来る。」そして、イエス御自身この感情を繰り返しています。ルカ 6:24-25 – 「**24** しかし、富んでいるあなたがたは、哀れな者です。慰めを、すでに受けているからです。**25** いま食べ飽きているあなたがたは、哀れな者です。やがて、飢えるようになるからです。いま笑っているあなたがたは、哀れな者です。やがて悲しみ泣くようになるからです。」

ヤコブ書 5 章に登場するこれらの富裕層は、金銀やその他の物質的財産を蓄え、高級な衣服を購入しました。しかしヤコブは、彼らの衣服は時とともに劣化するだろうと指摘します。金銀でさえ錆びると言われています。実際には純金や純銀は他の金属のように錆びないが、ヤコブは可能な限り劇的な表現を用いています。ヤコブは、こうした人々が最終的には裁きを受ける運命にあると思なししています。3-4 節を読みましょう – 「**3** あなたがたの金銀にはさびが来て、そのさびが、あなたがたを責める証言となり、あなたがたの肉を火

のように食い尽くします。あなたがたは、終わりの日に財宝をたくわえました。4 見なさい。あなたがたの畑の刈り入れをした労働者への未払い賃金が、叫び声をあげています。そして、取り入れをした人たちの叫び声は、万軍の主の耳に届いています。」

錆は、将来の裁きの時に、これらの者たちに対する証人となる。彼らが蓄えた宝もまた、終わりの日に彼らに対する証人となります。彼らはどのようにしてこの宝を得たのでしょうか？4 節 – 「4 見なさい。あなたがたの畑の刈り入れをした労働者への未払い賃金が、叫び声をあげています。そして、取り入れをした人たちの叫び声は、万軍の主 (the Lord of Sabaoth) の耳に届いています。」

「サバオト Sabaoth」の主」という表現は旧約聖書の用語で、「万軍の主」または「天の軍勢の主」を意味します。「サバオト」はヘブライ語で「大勢の人々」を意味する言葉です。英語では古風な表現「hosts (軍勢)」が使われますが、その背景にある概念は人々の軍隊であり、この文脈では神の天使の軍勢を指します。したがって、この表現を現代英語に訳した「天の軍勢の主」という訳語を、ブルース牧師のヨシュア記の説教で耳にしたことがあるかもしれません。牧師はメッセージにニュー・リビング訳聖書を使用しているためです。

ここにある 4 節をもう一度見てください。これらの金持ちたちは労働者を搾取し、公正な賃金を支払わず、他人の犠牲の上に自らを豊かにしてきました。搾取された労働者たちはこの不正に苦しみながら叫び声をあげ、ヤコブは読者に、天の軍勢の主がこの叫びを聞かれたと伝えています。これらの叫びもまた、裁きの時に、あの利己的な金持ちたちに対する証拠となるでしょう。

5-6 節 – 「5 あなたがたは、地上でぜいたくに暮らし、快樂にふけり、殺される日にあたって自分の心を太らせました。6 あなたがたは、正しい人を罪に定めて、殺しました。彼はあなたがたに抵抗しません。」

これらの人々は贅沢に暮らしていますが、肥育のために極上の餌を与えられ、やがて屠殺の日を迎え、最終的に食べられてしまう豚や子牛のようです。この贅沢と放縦な快樂に満ちた生活もまた、審判の日にこれらの富裕層に対する証拠となるでしょう。彼らが搾取する正義の人々は、往々にしてその搾取を止める力を持ちません。人類の歴史の大部分において、そうでした。

歴史上、搾取された民衆が暴動や反乱を起こした事例は数多くあります。時に彼らは不正を正すことに限定的な成功を収めることもありますが、往々にして反乱は鎮圧され、不正は続きます。したがって人類史の大部分において、不正に苦しむ人々はただ耐え忍ぶしかありませんでした。

これは、大学入学直後の頃、私が抱いていた強い感情を思い出させます。高校時代の十代の間、キリスト教の良き教育を受けていたにもかかわらず、様々な理由でキリスト教を疑うことがよくありました。キリスト教は真実なのか？進化論の証拠はどうか？人類は

偶然に進化したのか、それとも実際に私たちを創造した神が存在するのか？こうした疑問を抱えたまま、私は家を離れて大学へ進学しました。キャンパス内のキリスト教団体の一つが、私の疑問の多くに答えてくれる有益な書籍を紹介してくれたことに感謝しています。また、初めて聖書全体を読み通した。聖書の物語の展開に驚嘆しました。この聖書が、人間の存在に関わる核心的な問題——私たちはどこから来たのか（神が御自身の姿に似せて私たちを創造し、この世界を創られた）、なぜ私たちはこのような混乱の中にいるのか（エデンの園でアダムとエバが罪と反逆へと堕ちた）、そして私たちの問題の解決策は何か（私たちの罪のために十字架上でキリストが犠牲となられ、私たちがキリストを主であり救い主として信じ、信頼する時に救いが訪れる）——に対する答えを持っていることに感銘を受けました。

しかし、私は疑問への答えを得ただけでなく、悔い改めと信仰による罪からの救いの道を見出ただけでなく、大学入学当初の頃、私の心に強く迫っていた別の問題がありました。周囲の世界について学ぶほど、社会に見られる不正に心を痛めるようになりました。ヤコブの手紙 5 章に記されているような搾取の形態です。新聞や歴史書を通じて、世の中に存在するあらゆる不正や残酷さを目の当たりにしました。それは本当に気が滅入るものでした。私はしばしば絶望を感じました。しかし聖書には、神に背き、隣人に対して罪を犯し、神への反抗を続け、決して罪から離れず神と和解しなかった者たちすべてに、最終的に裁きの日が来ると記されています。この世の不正義を目の当たりにしながらも、いずれ神がすべての行いを裁かれると知ることは、私にとって慰めとなりました。

黙示録 20 章 11 節から 15 節に記された最後の審判の日について読みましょう。黙示録において、ヨハネは未来の出来事に関する様々な幻を与えられています。そして、彼は 20 章 11-12 節でこのことを書いています – 「11 また私は、大きな白い御座と、そこに着座しておられる方を見た。地も天もその御前から逃げ去って、あとかたもなくなった。12 また私は、死んだ人々が、大きい者も、小さい者も御座の前に立っているのを見た。そして、数々の書物が開かれた。また、別の一つの書物も開かれたが、それは、いのちの書であった。死んだ人々は、これらの書物に書きしるされているところに従って、自分の行ないに応じてさばかれた。」書物が開かれ、そこには神を知らずに死んだ大小の悪人たちの行いが記されており、彼らはそれらの書物に記された事柄、すなわちすべての悪行によって裁かれます。

13-15 節 – 「13 海はその中にいる死者を出し、死もハデスも、その中にいる死者を出した。そして人々はおのこの自分の行ないに応じてさばかれた。14 それから、死とハデスとは、火の池に投げ込まれた。これが第二の死である。15 いのちの書に名のしるされていない者はみな、この火の池に投げ込まれた。」

いのちの書に名が記されている人々は、イエス・キリストを信じ、罪を悔い改め、その救いの賜物を受け入れた者たちです。それ以外のすべての人々は、他の書物に記された行い

によって裁かれます——偉人も平凡な者も、創造主への反抗を続けた者たちすべてがそうです。そうした者たちの運命は、火の池です。

しかし、その運命を避ける道があります。イエス・キリストを主であり救い主として信じ、自分の罪を悔い改め、十字架上であなたの罪のために捧げられた彼の犠牲を受け入れることによって、不義な者たちが待ち受ける運命から逃れることができるのです。私たちクリスチャンは完璧ではありませんが、私たちの罪の代価を支払ってくださったキリストへの信仰を通して、不義な者たちの運命に加わる代わりに、神と共に永遠を過ごすことができるのです。

ヤコブの手紙5章に戻ると、ここでは富と贅沢な生活を愛し、自分より弱い人々を搾取し、神を顧みずに富を得た利己的な金持ちたちに対する厳しい言葉が記されています。ヤコブはこうした行いを最も強い言葉で非難しています。これはクリスチャンが歩むべき道ではありません。ヤコブの手紙2章で読んだように、救いへの道はキリストへの誠実な信仰によって開かれ、その信仰は神を敬う行いとして現れるのです。次に、ヤコブの手紙5章の次の段落に進みましょう。そこでは、クリスチャンとして霊的な富を築く方法について記されています。注目すべきは、ヤコブがここで「兄弟たち」という言葉を使い始めていることです。これは彼が今や信仰を共にする者たちに向けて語っていることを示しています。

先週、私は人生を生きる上で謙遜の重要性について話しました。神に対する謙遜（神が私たちの人生を支配しておられることを認めること）と、互いに対する謙遜（例えば、不当に他人を批判しないこと）です。謙遜な生き方のもう一つの現れは忍耐であり、次の段落でそれについて読みます。先週、4章で言及された商人たちは人生の儚さを認識していなかったと述べましたが、この段落では、私たちがこの物理的な世界の現実と、成長には時間がかかるという明白な事実——肉体的な成長も霊的な成長も——をどう認識すべきかが記されています。

ヤコブ 5:7-8 – 「7 こういうわけですから、兄弟たち。主が来られる時まで耐え忍びなさい。見なさい。農夫は、大地の貴重な実りを、秋の雨や春の雨が降るまで、耐え忍んで待っています。8 あなたがたも耐え忍びなさい。心を強くしなさい。主の来られるのが近いからです。」 忍耐強くあれ。農夫の生活から学びなさい：神の良き大地が実を結ぶには時間がかかる——それが、神が私たちの住むこの惑星を設計された方法なのです。その現実を受け入れなさい。霊的にも、私たちは忍耐強くあるべきです。恵みの中で成長し、心を強め、行いを正すには時間がかかるのです。聖書を読み、キリスト教共同体での生活を経験し、この壁の外にある社会の邪悪な性質を経験する中で……クリスチャンとして学び、成長するには時間がかかるのです。

私自身の経験から言えるのは、人生を歩む中で時に過ちを犯すたび、聖書の特定の箇所が心に浮かび、そこに記されたキリスト教の原則に背いてしまったと気づくことです。私はその過ちを悔い改め、次に同じような状況に直面した時には、適切に対応できなかったあ

の時よりも、より良く行動しなければならないと自分に言い聞かせます。だからこそ私は聖書を大量に摂取することを強く推奨します——聖書を頻繁に、毎日読み、大量に読み込むのです。そうすれば人生の誘惑が訪れた時、聖書の教えを思い出すことで素早く誘惑から逃れられます...あるいは罪に陥った時でも、その罪に関連する聖句をすぐに思い出し、次に同じ状況に直面した時にはより良く行動しようと決意できるのです。このプロセスは私のクリスチャン生活の中で繰り返し起こってきました。だからこそ、聖書の大部分を朗読し研究し、クリスチャンとして振る舞うべき正しい方法を身につけるよう勧めるのです。そして、キリスト教の兄弟姉妹と密接な交わりを保ち、教会の交わりに積極的に参加すること。霊的な成長には時間がかかります。聖書を読むことと、教会生活に積極的に参加すること、この二つの習慣を身につけることが本当に重要だと考えます。

私が人生の指針としてきた重要な聖句はヘブル人への手紙 10 章 24-25 節です – 「24 また、互いに勧め合って、愛と善行を促すように注意し合おうではありませんか。25 ある人々のように、いっしょに集まることをやめたりしないで、かえって励まし合い、かの日が近づいているのを見て、ますますそうしようではありませんか。」

教会への出席を怠らないことが本当に重要です.....教会に来て、兄弟姉妹を励ますため、そしてあなた自身が霊的な成長において励まされるために、教会に来ることが本当に重要です。

ヤコブの手紙 5 章 7-8 節に戻しましょう。忍耐強くあれ。肉体的な成長も霊的な成長も、時間が必要です。しかしこの期間、私たちはただ待つだけではいけません。忍耐は怠惰や無活動ではありません。すべきことを行いながら、成長には時間がかかることを認めましょう。その時間を用いて心を強め、聖書を読み、教会の交わりに参加し、教会で霊的な賜物を用いることに携わりなさい。コリント人への手紙第一 12 章に記されているように、また私が過去何年にもわたる多くの説教で述べたように、聖霊は私たち一人一人に異なる賜物を与え、教会共同体全体の益となるよう用いるようにと命じておられます。

ここで興味深いのは、ヤコブが 8 節で「主の来られるのが近いからです」と述べている点です。これが私たちの動機の一部です。主の来臨が近いという事実です。私たちは常に主の来臨に備えていなければなりません。その正確な時期は知りませんが、主がいつ来られてもおかしくないという期待を持って生きるべきなのです。

一部のリベラル派学者や多くのキリスト教徒は、イエスや使徒たちが神の国が「近い」とか主の来臨が「近い」と語った言葉に戸惑ってきました。これらの言葉が語られてから二千年が経過しているのですから、どうして主の来臨が「近い」と言えるのでしょうか？神学者ダグラス・ムーによる私の持っている解説書には、この点について有益な考察が記されています：

しかし重要なのは、この「近さ」を適切な時間的枠組み、すなわち救いの歴史の中で理解することである。イエスの死と復活、そして聖霊の注ぎによって、「終わりの時」はすでに開始している。この救いの最終時代は、栄光のうちに再臨されるキリストによって頂点に達する。しかし—ここが肝心の点だが—この時代の長さは知られていない。イエスで

え「終わりの時」がいつまで続くか知らなかった（マルコ 13:32 参照）。これはすなわち、救いの歴史のタイムテーブルにおける次の出来事であるキリストの再臨が、初代教会から現代に至るまで「近い」、あるいは「差し迫っている」ことを意味する。あらゆる世代のクリスチャンは、主の再臨（パラウシア *parousia*）がいつ起こってもおかしくないという自覚を持って生き（あるいは生きるべきです！）、その認識に基づいて決断を下し、価値観を選択する必要があります。ですから、ヤコブがいた時代も、私たちの時代も、同じことが真実なのです。主の来臨は近いのですから、私たちは忍耐強く、しっかりと立ち続ける必要があるのです。¹

繰り返します：あらゆる世代のクリスチャンは、主の再臨（パラウシア *parousia*）がいつ起こってもおかしくないという自覚を持って生き（あるいは生きるべきです！）、その認識に基づいて決断を下し、価値観を選択する必要があります。

今日の聖書箇所に移りましょう。ヤコブ 5:9 – 「9 兄弟たち。互いにつぶやき合ってはいいけません。さばかれなためです。見なさい。さばきの主が、戸口のところに立っておられます。」先週のメッセージでは、クリスチャンが他のクリスチャンを裁くことについて多く語りました。そんなことはしないでください。裁き主である主イエス・キリストの来臨は近いのです。

ヤコブ 5:10-11 – 「10 苦難と忍耐については、兄弟たち、主の御名によって語った預言者たちを模範にきなさい。11 見なさい。耐え忍んだ人たちは幸いであると、私たちは考えます。あなたがたは、ヨブの忍耐のことを聞いています。また、主が彼になさったことの結末を見たのです。主は慈愛に富み、あわれみに満ちておられる方だということです。」

苦しみと忍耐の例として、旧約聖書の預言者たちが挙げられます。彼らは主に従い、神から授けられたメッセージを宣べ伝えました。たとえ神が事前に、多くの人々が聞き入れないと告げていた預言者たちであっても。エリヤ、エリシャ、イザヤ、エレミヤ、エゼキエル、ホセア、ヨナ、ミカ、その他多くの預言者たちです。

新約聖書においても同様である。使徒の働き 9 章において、主イエスはパウロをキリストの使徒として召し、主は 15 節と 16 節でこう言われました - 「行きなさい。あの人是我の名を、異邦人、王たち、イスラエルの子孫の前に運ぶ、わたしの選びの器です。16 彼がわたしの名のために、どんなに苦しまなければならないかを、わたしは彼に示すつもりです。」使徒の働きの残りの部分は、パウロの数々の勝利と苦難の物語を伝えています。彼は召命に忠実であり続けました。生涯の終わりに、パウロはテモテへ手紙 第二 4 章 7-8 節にこう記しました。「7 私は勇敢に戦い、走るべき道のりを走り終え、信仰を守り通しました。8 今からは、義の栄冠が私のために用意されているだけです。かの日には、正しい審判者である主が、それを私に授けてくださるのです。私だけでなく、主の現われを慕っている者には、だれにでも授けてくださるのです。」

¹ Douglas J. Moo, *The Letter of James*, The Pillar New Testament Commentary (Grand Rapids, MI; Leicester, England: Eerdmans; Apollos, 2000), 224.

主が私たち一人ひとりに与えてくださる使命に、私たち一人ひとりが忠実であり続け、預言者や使徒たちの模範に従うことができますように。

ヤコブの手紙 5 章 11 節では、ヨブの例が挙げられています。多くの方は、聖書の詩篇の直前にあるヨブ記に記された彼の物語をご存知でしょう。彼は「潔白で、神を恐れる人」と評されています。しかしサタンは神に、ヨブが忠実なのは単に神からの物質的祝福を享受しているからだと言いました。そこで神はサタンに、ヨブの富を奪い、さらに健康までも奪うことを許されたのです。ヨブは苦しみましたが、1 章 22 節には「ヨブはこのようなになっても罪を犯さず、神に愚痴をこぼさなかった。」と記されています。また第 2 章 10 節の終わりには「...ヨブはこのようなになっても、罪を犯すようなことを口にしなかった。」とあります。ヨブは多くの苦難に耐えながらも信仰を守り抜き、書物の終わりには主が彼の健康と家族と財産を回復されたと記されています。我々も直面するあらゆる困難の中で、信仰を保ち続けよう。

今日の聖書箇所最後の節を見ましょう。ヤコブ 5:12 – 「12 私の兄弟たちよ。何よりもまず、誓わないようにしなさい。天をさしても地をさしても、そのほかの何をさしてもです。ただ、「はい。」を「はい。」、「いいえ。」を「いいえ。」としなさい。それは、あなたがたが、さばきに会わないためです。この節についてジョン・マッカーサーが彼の Study Bible で述べているコメントが気に入っています。引用させていただきます：

この節に関する研究聖書から引用します：

ヤコブは書簡の中で繰り返し強調してきたように、人の言葉こそが霊的な状態を最も明らかに示すと説いた（ヤコブ 1:26; 2:12; 3:2-11; 4:11 参照）。「...他のいかなる誓いも立ててはならない」。イエスが先に示されたように（マタイ 5:33-36; 23:16-22）同様に、ヤコブは当時のユダヤ人の慣習——主の名以外のあらゆるもの（主の名だけが拘束力を持つとされていた）によって偽り、回避的、欺瞞的な誓いを立てる行為——を非難した。「『はい』は、『はい』である」。再びイエス（マタイ 5:37）を引用しつつ、ヤコブは率直で誠実な、明快な言葉遣いを求めた。それ以外の言葉は神の裁きを招くのである。²

繰り返します：ヤコブは書簡の中で繰り返し強調してきたように、人の言葉こそが霊的な状態を最も明らかに示すと説いた。ヤコブは率直で誠実な、明快な言葉遣いを求めた。

今日のメッセージを、私たちが学ぶべき教訓で締めくくみましょう：

- 物質的な富のみに執着し、しばしば従業員を搾取する人々への非難が記されています。これは滅びへの道です。彼らの例に倣ってはなりません。
- 人との関わりにおいて公正でありなさい。物質的な富に心を奪われてはなりません。
- 謙遜や忍耐といった内面の徳を育みなさい。霊的な成長には時間がかかります。
- 不当に他人を批判したり不平を言ったりしてはならない。イエスが再臨された時、あなたは責任を問われる。
- キリストの再臨に常に備えよ。
- 預言者や使徒、ヨブのような著名な人物の忍耐と耐え忍ぶ心を模範とせよ。
- あなたの言葉に誠実であれ。

² MacArthur, John. NKJV, *The MacArthur Study Bible: Revised and Updated Edition* (Function). Kindle Edition.